

東京海洋大学大学院 嘉村明彦君の印象

パーデュー大学原子力工学科

石井 護、日引 俊

2008年11月1日から2009年1月4日まで日米欧原子力学生国際交流事業の一環として、東京海洋大学、嘉村明彦君を当研究室に迎えました。非常に短期間でしたが、嘉村君は、研究の実施、毎週のリサーチミーティングや大学院講義への出席、博士課程最終試験の傍聴等、幅広い経験を積まれたことと思います。当研究室には、米国以外にも日本、韓国、中国、インド、台湾、トルコ、タイからの留学生が在籍しており、多様な英語が飛び交う中、嘉村君もしっかりとした英語で議論に参加していました。

嘉村君には、トルコからの留学生とともに、アメリカ原子力規制局（NRC: US Nuclear Regulatory Commission）から委託されている研究の一つを担当してもらいました。NRCは、次世代原子炉熱水力安全解析コードTRACEの改良を目指して、1997年に原子炉熱水力研究所（ITH: Institute of Thermal-Hydraulics）を当研究室に設置しました。これまでITH研究の一環として、TRACEの高度化のために必要なモデルの開発や実験データの取得を行ってきました[1, 2]。嘉村君の研究は、そのうちの一つで、サブクール沸騰開始時の熱流動パラメータを計測してもらおうというものでした。嘉村君は、賞雅・波津久研究室で相当鍛えられているとあって、非常に大きな戦力となってくれました。ある日、嘉村君にデータの整理を頼んだところ、非常に短期間で仕上げ、とても修士1年生とは思えないような出来栄に驚いたものでした。嘉村君は、非常にハードワーカーで、夜遅く、また、週末も含めて一生懸命に学んでいる姿が印象的でした。

せっかくアメリカに来たのだから本場のミュージカルを見てきたらどうかとアドバイスすると、当地から100キロほど離れたインディアナポリスまで出向き、ライオンキングを鑑賞して感動していたようです。また、こちらで多くの友人ができたようで、アメリカライフも満喫していたようです。嘉村君が、本事業の経験を活かし、将来、国際的な研究者、エンジニアとして羽ばたかれることを祈念しています。

[1] 石井護, 日引俊, 「パーデュー大学原子力熱水力研究室における研究活動について」, 伝熱 (Journal of the Heat Transfer Society of Japan) , Vol. 47, pp. 43-46 (2008)

[2] <https://engineering.purdue.edu/NE/People/index.html>